

平成23年度第4回さぬき市男女共同参画推進協議会 会議要旨

- 1 日 時 平成24年3月19日(月) 13時30分～14時40分
- 2 場 所 さぬき市役所3階303会議室
- 3 出席者 【委員】柿木委員 亀井委員 小山委員 谷 委員
筒井委員 藤井委員 細川委員 宮本委員
【事務局】総務部長、総務部政策課 政策課長外2名
【傍聴】0名
- 4 会議次第 1 開会
2 会長あいさつ
3 議題
(1)平成23年度男女共同参画講演会について
(2)男女共同参画社会の実現にむけた推進活動について
4 総務部長あいさつ
5 閉会
- 5 配布資料 資料1 平成23年度さぬき市男女共同参画講演会をふりかえって
- 6 会議内容

発言者	意見概要
課長	(13:30) 定刻がきたので開会する。会長の挨拶をお願いする。
会長	<会長挨拶>
課長	これからの進行は、会長をお願いする。
会長	では、議題に入る。議題1 男女共同参画講演会について事務局からの報告をお願いする。
係長	資料1 を使って報告
会長	報告を受けた内容以外の意見や参加者からの感想などがあればお願いする。
委員	男性にも個性があり、とにかく無理をしないことの大切さを教えられた。今回のような男性向きの講演会は、もっといろいろな人に声をかけて参加を促したい。夫も連れてきたらよかったと思った。
委員	男が心が折れるのはどういうときか、と思った。吉岡さんは都会で生活しているから、田舎のやや古い習慣が残っている地域で生活している者としては「少し違うな」と思う部分もあった。男が心が折れるときの具体的な例をもっと教えてほしかった。
委員	幼稚園・小学校・中学校のPTAにチラシを配布したが、(アンケート結果を見ると)10人程度は効果があったのではないかと思う。友達の誘いや市の広報紙やチラ

	<p>シといったオーソドックスなPR法が効果があるのだと思った。CATVがゼロは寂しい。もう少し若い人に来てもらいたかったとも思うが、50代、60代の方が興味・関心が高かったのかもしれない。</p>
委員	<p>家族で行ったのだが、タイプAの夫にはとても耳が痛かったらしく、一言も(講演会についての)会話がなく、触れてはいけない状態になった。他の講演会と一緒に行ったときはその話をいろいろするのに、今回に限ってはほとんど話がなかったことが、逆に、何かしら彼の中で気づく部分があったからかな、と思う。友人は、こういう話を聞く機会がなかったのでよかった、と言っていた。</p>
委員	<p>自分が働いていたときは、生きるか死ぬかの気持ちで仕事をしていないと会社が生き残れないという厳しさだったので人間の心より会社(を重視していた)。そんな中で育ち、生き残った人が会社で出世していく社会だった。それはどこの組織でも一緒に、キツイか弱いかの差であったと思う。講演会では、講師自身の会社員時代の話よりもカウンセラー的な話であった。私は講師自身が心が折れる前の厳しい中で生きていて、その中で心が折れて以後自分の人生観がこう変わったという話かと思っていた。全体としてはよかったのではないか。特に女性が聞いてよかったのではないか。</p> <p>それと介護についてだが、介護についてはいろいろな人から話を聞くが、女性に大きな比重がかかっており、それを男性と半分半分にしようということになると、うまく(生活が)まわるのかなという心配がある。まわす方が現代的な社会への道だと思うが、まだそこまで男女共同参画社会への実現には至っていない。ということは我々の課題はまだあると思う。</p>
会長	<p>今回の講演について、いろいろな人に働きかけた。その中で、息子さんが保険会社に勤めていて昨年の大震災の前に東北に転勤になり、大震災後の保険処理業務に追われ、働き続けざるを得ない状況で心が折れて亡くなったという母がいた。その母曰く、もっと早くこの講演を聞いていたら、と言われた。一方で、働き続けてそこで命を落とした息子に対して弱かったとは思わないという話もしながら、聞いてよかったと話された。その他何人にも感想を聞いたが非常によかったと言って、具体的に内容を挙げてくれた。</p> <p>今後の講演に介護の方をという話があったが、男女共同参画の視点でどういうふうに介護に取り組むか、ということと、さぬき市も高齢化が進んでいるのは確かであり、(社会において)医療・介護・福祉の場面が変わりつつある中でやはり具体的にどなたかの講演を聞くという要望があるのもなるほどその通りであると、今の報告を聞いて思った。</p>
委員	<p>年配の女性と話をしていると、「男の人は優しくするとつけあがって、何もなくなる。いつも女が損をする。」という話をよく聞く。逆に男も妻に優しくすると自分がえらい目をする、損をすると思っていて、最終的に男も女も、愛=えらい、という感覚。損得の話をすると損をするという発想がある。お互いに夫婦という人間関係において尊敬しあえる心がないと、口先だけで男女共同参画を訴えても、体がえらいからもてない。だからケンカになる。本当に男女共同参画というのは成立するのだろうか、と年配の社会の中で、女の人からそういう話が出てくる。</p>
会長	<p>互いに自分を尊重し尊敬し、そして他を尊敬し尊重していく、というのが実は男女共同参画の大きな基盤だ。</p> <p>それでは次の議題に移る。議題2 男女共同参画社会の実現に向けた推進活動について、これまでの活動を振り返りながら、来年度以降に向けた提言をお願いする。</p>

委員	<p>私は男女共同参画推進協議会の男女の間に点を打っている。男・女共同参画協議会と言っており、「推進」にはほど遠いのではないか。それを「男女共同参画推進協議会」にするための一つ的手段として、さぬき市に男女共同参画推進室を作っていたきたい。理由は、高松市には男女共同参画推進センターという施設があり、あれを見ると、高松市はこういうような場面までPRしており、そこへ行けばある程度男女共同参画という意識が生れる。さぬき市にお金がないのは承知のうえで、さぬき市行政の中で男女共同参画を進めていくために、その拠点となるところを作れば、ひとつ前に進むのではないか。</p> <p>次に、これからは家庭においていろいろなことを十分に話をし、話を聞くというのが男の仕事になってくるのではないか。これまでは男が話をする立場が案外多かった。お互いにじっくり話を聞いて、最後に「ありがとう」と自然に言葉が出てくるような生活が男女共同参画の一つの手立てだと思う。</p>
委員	<p>各種委員会の委員を任命した時、新人研修や職員研修等の際、さらに各種団体に向いて男女共同参画について時間をとって話をすることが必要ではないか。あらゆる機会において男女共同参画の勉強をすることで意識改革を進める必要がある。</p>
委員	<p>家庭教育が子どもの人格形成に大きな影響を与えるため、保育所、幼稚園、小学校までの保護者に対して男女共同参画の意識を持ってもらう働きかけが必要。例えば保育所、幼稚園とタイアップし、保護者参観の後に時間をとって講演を行うなど、具体的に家庭教育に切り込んでいく必要があるのではないか。</p>
委員	<p>今回の講演には参加できなかったが、男女共同参画についてだけでなく、人間は心と体が健康でなければ、人に対して余裕を持った考え方ができないと思う。</p> <p>高齢化社会を迎え、高齢者もまず(精神的、経済的に)自立すること、若い人も若い人なりの自立をすることが大切。そのためには健康な体づくりがまず必要だと思う。(健康な体づくりの)推進活動をしていけば、自然にお互いを思いやり尊敬する気持ちが芽生える世の中になるのではないか。</p>
委員	<p>これから高齢化社会を迎えるが、高齢化社会を形作る中で、これから60歳、65歳になる団塊の世代といわれる人々が一番人口が多い。今働き盛りの20代、30代の人たちにも教育は必要だが、(退職後)これから自分たちのコミュニティーや社会に出ていく人たちへの教育も必要ではないか。万が一、妻の介護が必要となった場合、料理等自分でしなければならぬことはたくさん出てくる。これから定年後の社会に出ていく方対象に市の行政機関等から呼びかけをし、料理に限らず自分たちが自立して生活するためには何が必要なのか考えられるような、そういうシステムを作ってほしいと思う。</p>
会長	<p>まだ意見があるとは思いますが、思い出したら具体的な提言として担当に提出してもらいたい。</p> <p>それでは、総務部長から挨拶をお願いします。</p>
総務部長	<p><部長挨拶></p>
会長	<p>以上で、第4回さぬき市男女共同参画推進協議会を閉会する。(14:40)</p>

